東北大学附属図書館報
木這子
BULLETIN OF
THE TOHOKU UNIVERSITY LIBRARY

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

このページは
著作権処理の都合上、
ご覧いただけません。

国イタリアに住むべきだ，という思いがつのるのである。それがコーラの革命運動により点火されたのであった。

法王庁にはローマ貴族出身の枢機卿が数多くいたので，このコーラの革命は，たちまち反対にあった。一時は貴族の反抗は撃破されたが，コーラを異端とみなす法王教書が出るに及んで，運動は終息する。

≪私は意気ごんであなたのもとへと急ぎましたが，道を変えます。こんなに変わってしまったあなたを見たくないのです。そしてローマよ，きみにも長い別れを告げよう。この知らせがほんとうなら，私はむしろインド人かアフリカ人のもとにゆきたい≫。ペトラルカはコーラの失敗を聞き，ジュノワから書簡を出している。

彼はローマに住みたいと望んでいたが，ローマはますます混乱を予想させ，断念せざるをえなかった。また，1351年にはフィレンツェが，父ペトラッコの資産を返し，大学教授の職を提供する，という条件で，彼の帰国を望んだし，又フランス王もシチリア王もパリとナポリに住むように招いた。53年にはマントヴァのゴンザカ家も，邸宅を提供している。しかし，いずれも彼は快い返事をしなかった。イタリアに帰る，という意志はあったが，住む，という具体的な問題となると，彼には選択することのできない何ものかを感じていたかのように見える。

彼はミラノという，フィレンツェの仇敵の都市，共和制主義とは正反対の僭主制の支配する都市に，ほとんど偶然で住むようになるのである。ミラノはイタリアの都市に違いなかったが，片田舎の静けさを好んでいた彼には喧噪そのものの大都会であった。むろんこのミラノ居住については，さまざまな推測が成立つ。ミラノは当時イタリアでヴェネツィアとならんでもっとも安定した強大な国家であり，そこにジョヴァンニ大司教という尊敬すべき人物もいた。その平和と安全が，彼に自由と余暇を与えるであろう，と。しかしはっきりした理由はわからない。フィレンツェ人ボッカチオはペトラルカのミラノ居住に抗議の声をあげる。しかしペトラルカはそれを黙殺する。人の住むところは，人の意志ではなく，情況によるものなのだ，ということを，彼自身よく知っていたからに違いない。≪すでに2か年をフランスで過ごしたのち帰国の途にありましたが，ミラノまでくると，もっとも偉大なイタリア人（ジョヴァンニ大司教）が思いがけなく私に手をさしのべたのです≫。予じめミラノに向かったわけではない旅先での突然の懇願に応じたこのミラノ居住に，いくら理由をつけても説明できぬ人生の不思議さをペトラルカ自身感じていたと思われる。この8年もいたミラノを去り，最後にパドヴァに近いエウガネイの丘の麓にあるアルクワに家を構える。

彼は居住を変えることによって作品の内容を変えたわけではない。彼の住む土地をいくら調べたからといって，彼の作品の理解にどの程度寄与するかわからない。しかし，文学作品とはもともと人の住む土地との出合いの不可解さに似て，確とした創作の理由を述べられるものではない。ただ自ら「地上のさすらい人」と称したペトラルカが，「地上」の問題を超えたものに視点を合わせていたからこそ，そのすぐれた文学作品が生み出していたとだけは考えられる。（ペトラルカの引用はすべてFamiliarium rerum libri から）

第28回国立大学図書館協議会総会

日　時　　昭和56年6月23日（火）～24日（水）
場　所　　沖縄都ホテル
本学出席者　服藤図書館長，長尾事務部長，竹原総務課長，木本医学分館事務長

九州地区が当番の標記会議は琉球大学が会場館となり，太陽が眩い梅雨明け直後の那覇市で開かれた。総会には全国国立大学附属図書館長，事務（部課）長等約220名が参加し，文部省からも田保橋情報図書館課長，田中専門員，糸金大学図書館係長が列席した。

総会は一般経過報告，国公私立大学図書館協力委員会等の報告，役員選出が行なわれた後，本総会の主要な協議事項である「国立大学図書館相互利用実施要項及び細則」（理事会案）について審議し承認された。

続いて昭和56年度国立大学図書館協議会賞受賞者（東京大学情報図書館学研究センター・柴田正美氏，千葉大学附属図書館業務機械化ワーキンググループ）の表彰式が行なわれた。

午後の研究集会に先立ち，田保橋情報図書館課長から挨拶及び昭和56年度予算の概要と明57年度予算の見通しについて，特に学術情報システムの取組みについての説明があった。

研究集会のテーマは大学図書館と学術情報システム，―学内における情報システムの改善について― が取り上げられ，北海道大学，名古屋大学，京都大学の各館長から，それぞれの大学内において，このシステムに向けて如何に対処しているか，体勢作りと人員配置の問題点も含めて発表が行なわれた。

分科会においては昨年同様，第1分科会（運営・サービス）第2分科会（予算）第3分科会（人事）において，夫々要望事項の討議を行ったが，既に文部大臣並びに関係方面に提出済の要望書に追加する事項もなく，午後の全体会議において，各分科会主査が討議のまとめを行なった。特に来年度の予算事情の厳しさ，内部的事務改善の努力，図書館職員の向上などの緊要性についての指適が多かったことが注目された。

以上2日間にわたる議事は終了し，次期会場館（明年6月24日，25日開催予定）信州大学附属図書館長の挨拶に次いで会長，会場館館長の閉会の挨拶があり，総会は閉会した。

なお，第一日に行なわれた役員改選の結果，会長館に東京大学，副会長館に東北大学，京都大学が再選された。

（総務課長）

第12回国立大学図書館東北地区協議会総会

去る4月17日（金）～18日（土）の両日，秋田大学を当番館として標記会議が開催され，本学から服藤館長，長尾事務部長，村岡企画・渉外掛長斎藤工学分館長，佐藤図書掛長，小野農学分館図書掛長が出席した。

協議に先立ち，梅津秋田大学長の挨拶があり，続いて議長の選出は慣例により当番館長と言うことで石川館長が議長となった。議長の進行により，出席者の自己紹介があり議事に入った。

一般報告として，東北大学　長尾事務部長より，昨年行われた第2回実務者研修会，第28回国立大学図書館協議会総会，学術情報センターシステム説明協議会，昭和56年度大学図書館予算，及び国立大学間相互利用実施要綱等について報告があった。特に昭和56年度大学図書館予算については，前年あたりから共同利用という点に重点が置かれた予算となってきている。内容としては，夜間開館等の図書館サービス向上のためのパート職員経費の増額，業務合理化のための電算機レンタル料の措置，拠点図書館に対し業務経費の新設，又，図書購入費については，外国雑誌購入費の増額，学生用図書購入費が充実された。

また，大学図書館職員の増については，全国的サービス体制が整備されている規模の大学に予算が認められている。

今後，大蔵省，文部省の予算に対する姿勢は共同利用という点が評価される形になってきているので，図書館としても今後はこれに焦点を合せていかなければならない旨報告があった。

ついで昭和56年度の理事館および当番館について次のように確認した。

理事館　弘前大学附属図書館（第1部会）
理事館及び地区連絡館　東北大学附属図書館
次期当番館　福島大学附属図書館

引続いて次の協議がなされた。

(1)　第28回総会提出協議題及び要望事項について

要望については，ポイントが把めない要望は通用しないので，今まで実現されなかった要望事項のうち，東北地区の重点事項として，7項目が取りあげられ，更に附属図書館建物の必要面積等の改定，身障学生のための施設整備等についても要望の中にとり込むこととなった。なお，協議題については後日とりまとめた結果，「学術情報センター設置の促進方について」を提出することとなった。

(2)　第3回実務者研修会について

・開催時期　12月頃　2日間
・研修テーマ　従来どおり各館に依頼する。今年は東北大学で行うが，第4回以降については開催校を持ち廻りで進めてほしいとの希望があった。

(3)　大学図書館間に係わる文献複写業務の改善について

種々論議されたが，特に会計制度が同一の場合においても一般会計と特別会計の場合，事務処理上コンピューター処理が出来ないため手数がかかる事等が論議の焦点となった。

以上の討議が終了し，つづいて談話題として，「退官教官の図書返却について」，及び「学内学生に対する文献複写の実態について」が秋田大学より出され，各大学の実情説明の後，意見の交換が行われ議事を終了した。

昭和55年度特別図書購入報告

特別図書購入費（文部省配分）によって，下記資料を購入し本館に備付けましたのでご利用下さい。

図書資料名	巻号	刊年
Early English Books. STC II. Units 32-33. (1641-1700) （英国古書集成）		1980
Encyclopedia Tibetica. （チベット百科全書）	Vol. 47-66	1969-1975
Encyclopaedia Judaica & 1973, 1974, 1975-76 year book. （ユダヤ百科全書）	Vol. 1-16	1978
Энциклопедический Словарь. 7版 （グラナート百科事典）	第1—20巻	1980-1981
陽明叢書　国書篇　14輯　1セット		1975-1978
Civilisations. （文明）	Vol. 1-28	1951-1978
British Academy. Proceedings. （英国学士院報告）	Vol. 21-33	1924-1936
四庫全書珍本　第十集	第1～310巻	1979
韓国史料叢書		1974
Great Britain. Public Record Office. List and Indexes. （英国公記録保存所編，古文書，古記録集成）	Vol. 15, 42-55.	1963, 1968
臨時司法制度調査会 臨時司法制度調査会議事録　第1～62回		1962-1964
内閣文庫 ・御目付達書留　・御老中渡書付留 ・御書付并達留　・御書付并達留		1980
WWI-Mitteilungen. （ドイツ労働総同盟，経済社会科学研究所月報）	Bd. 1-25	1948-1972
Statistik des deutschen Reichs. Neue Folge. （ドイツ帝国統計集）	Bd. 403-472	1925-1941
明治初期教育稀覯書集成（唐沢富太郎） 全23帙　1セット		1980
Pedagogica Historica. （教育学史）	Vol. 1-18	1961-1978
Истолия Фабрик и Заводов СССР. （ソ連工場史）	No. 1-20	1976
American Society of Mechanical Engineers. Transactions. （アメリカ機械技術者協会誌）	Vol. 1-32	1880-1910
Dissertations in Linguistics. （言語学未出版学位論文選）		1971-1978
The Renaissance and the Gods. （ルネッサンスと神話芸術）		1976

昭和55年度文部省指定高額外国図書について

標記については，文部省より①附属図書館に蔵置すること，②学内・外の研究者の共同利用に供することを条件として，下記資料購入費予算 918 万円の特別配分があり，この程諸手続を終え本館に備付けられ利用可能となりましたのでお知らせいたします。

図書名	出版形態	冊数	内容
American State Reports ; Prior to National Reporter System. 35mm Microfilm. （アメリカ各州判例集）	マイクロフィルム	1,106 Reels.	「全米判例体系」（National Reporter System）以前の各州の判例をすべてカバーしている。完全なリール内容の案内がついている便利な冊子体索引付。

昭和55年度図書受入冊数調

部局＼種別	購入図書			受贈図書			計		合計
	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	計	和漢書	洋書	
本館	7,712	3,176	10,888	2,053	411	2,464	9,765	3,587	13,352
医学分館	3,216	4,278	7,494	951	1,108	2,059	4,167	5,386	9,553
工学分館	2,686	3,232	5,918	264	83	347	2,950	3,315	6,265
農学分館	1,501	1,291	2,792	179	443	622	1,680	1,734	3,414
文学部	3,744	3,091	6,835	742	657	1,399	4,486	3,748	8,234
教育学部	1,072	806	1,878	214	8	222	1,286	814	2,100
法学部	1,310	2,231	3,541	313	38	351	1,623	2,269	3,892
経済学部	2,222	3,591	5,813	780	235	1,015	3,002	3,826	6,828
理学部	785	4,601	5,386	576	1,630	2,206	1,361	6,231	7,592
教養部	4,883	4,875	9,758	139	62	201	5,022	4,937	9,959
応情研	8	176	184	0	0	0	8	176	184
サイクロ	49	295	344	43	34	77	92	329	421
大計	78	78	156	0	4	4	78	82	160
川渡農場	(16)	(6)	(22)	(0)	(0)	(0)	(16)	(6)	(22)
学生部	46	26	72	0	0	0	46	26	72
金研	128	842	970	15	60	75	143	902	1,045
農研	(464)	(242)	(706)	(103)	(301)	(404)	(567)	(543)	(1,110)
選研	68	339	407	38	44	82	106	382	489
科研	28	244	272	0	0	0	28	244	272
速研	183	378	561	11	18	29	194	396	590
通研	103	532	635	9	5	14	112	537	649
非水研	137	527	664	18	21	39	155	549	703
合計	29,959	34,609	64,568	6,345	4,861	11,206	36,304	39,470	75,774

備考：川渡農場，農研の受入冊数は農学分館に含む。

昭和55年度　下半期文献複写実績

国立大学図書館間等で取扱われた文献複写の本学に於ける昭和55年度下半期（10月～3月）実績は下記のとおりです。

区分 / 図書館名	受付 件数	受付 金額	依頼 件数	依頼 金額
本館	604 (192)	773,145 (177,985)	191 (278)	690,327 (329,826)
医学分館	483 (440)	215,049 (182,740)	29 (308)	14,045 (150,235)
工学分館	288 (11)	186,145 (3,490)	55 (5)	26,600 (1,990)
農学分館	107 (35)	44,560 (22,240)	25 (89)	20,210 (38,690)
合計	1,483 (678)	1,218,899 (386,455)	300 (680)	751,182 (520,741)

(註)　表中の（　）内数字は私費を示す。

昭和55年度下半期（10月～3月）文献複写受付および依頼国立大学別実績は下記のとおりです。

区分 / 大学別	受付 件数	受付 金額	区分 / 大学別	依頼 件数	依頼 金額
筑波大図	65 (46)	41,555 (22,545)	東大図	18 (95)	153,687 (140,296)
岩手大図	29 (12)	74,485 (12,335)	北大図	31 (15)	19,215 (24,620)
三重大図	26	17,355	一橋大図	7 (36)	35,035 (47,890)
秋田大図	22 (4)	6,525 (3,335)	京大図	12 (25)	8,090 (21,295)
静岡大図	21 (1)	7,750 (530)	名大図	10 (14)	11,995 (12,955)
新潟大図	12 (9)	6,605 (3,950)	九大図	13 (5)	114,475 (5,870)
宮教大図	18	8,415	広島大図	8 (5)	8,080 (4,610)
名大図	10 (7)	30,700 (3,780)	東工大図	13	4,615
北大理図	16 (1)	77,485 (325)	金沢大図	5 (6)	3,720 (5,490)
九大図	7 (7)	8,425 (7,860)	岩手大図	9 (2)	4,015 (985)
その他	378 (105)	493,845 (123,325)	その他	65 (75)	327,400 (65,815)

(註)　表中の（　）内数字は私費を示す。
※　受付および依頼件数の多い上位10の国立大学を上げました。

東北地区大学図書館の相互利用状況の調査について

—東北地区大学図書館協議会（国立部会）昭和55年度実務者研修会相互利用関係アンケート調査—

このアンケートは昨年11月におこなわれた表記研修会（相互協力に関する）の資料とするため，東北地区各館・各分館（国立大学のみ）の相互協力のうち，利用面の状況を(1)文献複写，(2)他大学相互利用，(3)相互貸借の三項目について，調査したものである。別表1～4をかかげ比較。

調査の目的は，東北地区内の利用面での相互協力即ち相互利用がどれだけの割合をしめしているかをみることであった。

調査対象は東北地区各国立大学附属図書館・分館の15館である。

結果は

相互利用総件数は	24,524件	
うち文献複写は	21,670件	88.4%
うち他大学相互利用は	2,451件	10.0%
うち相互貸借は	403件	1.6%

である。

では，これらの割合を全国の割合と比較してみると，

全国の国立大学の

文献複写の件数	291,806件
相互貸借の総件数	30,658件

（この数値は「昭和54年度大学図書館実態調査結果報告」より）

であり，合計　322,464件である。

東北地区の文献複写＋相互貸借の合計は22,073件であり，全国からみた東北地区の相互利用の流通度（割合）は6.8%になる。文献複写については7.4%であり，相互貸借については1.3%である。

これらの数値が多いか少ないかの判断は他の地区の流通度と比較しなければはっきり言いきれないが，また，大学数の多少によっても違ってくると思われるのであるが，単純に全国を9地区にわけ（国立大学図書館協議会のわけ方）全国平均*を11%と仮定すると，東北地区の数値はいずれも少なくなっている。

* 全国平均（仮定）＝100/9
全国の合計を100%として，それを9地区で割る。

東北地区の特に文献複写について依頼と受付を比較すると依頼の方が多くなっており，また，東北地区以外への依頼も地区内への依頼より多くなっている。即ち地区外への依頼が76%にたっしている。

相互貸借については，アンケートに不備な点があり実施館の把握が不完全であった。

（相互利用掛）

1　文　献　複　写

相手館	東北地区 国立大	高専	公私立大	公私立短大	総計(A)	東北地区計(B)	% (B/A)	地区外
依頼件数	2,329	0	389	0	11,379	2,718	24	8,661
受付件数	2,532	16	863	35	10,291	3,446	33	6,845

2　他大学相互利用

相手館	東北地区 国立大	高専	公私立大	公私立短大	総計(A)	東北地区計(B)	% (B/A)	地区外
依頼件数	171	0	102	4	984	277	28	707
受付件数	133	6	1,066	20	1,467	1,225	84	242

3　相　互　貸　借

相手館	東北地区 国立大	高専	公私立大	公私立短大	総計(A)	東北地区計(B)	% (B/A)	地区外
依頼件数	0	0	0	0	347	0	0	347
受付件数	0	1	48	0	56	49	88	7

4　各館別集計

		弘大図	弘大医分	岩大図	東北大図	東北大医分	東北大工分	東北大農分	宮教大図	秋大図	秋大医分	山形大図	山形大医分	山形大工分	山形大農分	福島大図	計
(1) 文献複写																	
総計	依頼	1,002	1,794	386	1,245	1,667	141	200	48	1,276	1,626	489	928	230	257	90	11,379
	受付	490	2,667	374	1,948	2,779	278	252	24	278	377	304	116	160	68	176	10,291
東北地区計	依頼	336	155	297	57	279	22	17	12	321	634	126	289	65	75	33	2,718
	受付	215	1,209	326	419	400	115	122	7	112	166	103	65	77	30	80	3,446
%	依頼	34	9	77	5	17	16	9	25	25	39	26	31	28	29	37	24
	受付	44	45	87	22	14	41	48	29	40	44	34	56	48	44	45	33
(2) 他大学相互利用																	
総計	依頼	56	4	81	622	4	0	0	55	61	0	41	52	2	0	6	984
	受付	38	0	34	404	7	1	918	14	5	0	24	6	0	8	8	1,467
東北地区計	依頼	14	0	68	101	0	0	0	52	9	0	26	4	0	0	3	277
	受付	38	0	21	236	4	1	884	14	2	0	18	3	0	0	4	1,225
%	依頼	25	0	84	16	0	0	0	95	15	0	63	8	0	0	50	28
	受付	100	0	62	58	57	100	96	100	40	0	75	50	0	0	50	84
(3) 相互貸借（空白はアンケートに記されてなかった部分である）																	
総計	依頼	10		18	135					109		45				30	347
	受付	6				48						1				1	56
東北地区計	依頼																
	受付	1				48											49
%	依頼																
	受付	17				100											88

東北大学記念資料室だより

○　創立74周年を記念する「東北大学の歴史に関する資料展」は，創立記念日（6月22日）に続く3日間 23日（火）24日（水）25日（木），附属図書館エントランス・ホールで開催された。本年はいままでの内容と違って過去1ケ年間に収集した記念物を中心として，それに以前からの収集物はごく一部を加えるだけとした。また本年からはいままでと違って，学外の方々にも広く公開して多くの一般市民の要望に応えることとした。貴重な資料を本室へ寄贈して下さる方が次第に増加し，1年間でも相当の点数にのぼって来た結果であり，また本室の収蔵物にきわめて貴重な記念物がふくまれており，その公開を要望する声が高まって来たためであって，まことによろこばしいことである。市内の報道機関に通知し，学内各部局に案内を出した結果，1日約150人くらいの方々の来館があった。

○　6月の上旬，北日本図書館大会に出席のため原田助教授（本室副室長）は札幌に赴いたが，その機会に北海道大学を訪問し，「北大百年史編集室」において室長永井秀夫教授以下の方々と遭った。その時昭和7年5月東北帝国大学会計課作成の「経理参考資料」と題する文書を示され，それが経理資料としては珍しく沿革を主とするものと知り，御好意にすがって，その復製1部を寄贈してもらうこととした。当時の本学は関係ある資料はどしどし，もともと兄弟である北大へ送っていたらしい。（明治40年～大正6年，両者は同じ東北帝大の分科であった。北大では札幌農学校以来の創立100年を祝い，上述の百年史と記念館の建設とをおこない，立派な展示スペースが設けられていた。

○　本学には幾つかの寄宿寮があるが，中でも全国的に有名なのは，北六番丁の旧制二高以来の「明善寮」である。この歴史ある旧制高等学校の寮は，60年の風雪にたえ，幾多の人材の青春を育くんで今日に至ったが，さすがにそのいたみも甚だしく，やがて何等かの形で修理その他の大工事がおこなわれると聞いている。本室では寮生の好意的な案内をうけ，現状の大要を写真にとっておくことを計画し，7月上旬これを実行した。若者たちの生の気吹きは，汚れにも痛みにも負けないで，板戸や白壁や天井の随所に，痕跡をとどめていた。聞けば全国20余の旧制高校の寮舎で昔の面影をのこしているのは，東大の駒場寮と東北大の明善寮だけという。駒場寮は戦前の鉄筋コンクリート造だから，歴史も短かく軀体は強い。大正以来の木造のこの寮は，歴史と伝統を満載して崩壊寸前である。記念資料としてはもっとも価値が高い。全国の旧制高校の寮生活の名残りとして，何とか残すことは出来ないであろうか。せめてその一部分でも。これは最近一人ならず聞える声である。

○　本部事務局の暖房用ボイラー室に隣接した木造の建物に収納されていた本部関係の公文書が，このたび本部地区内の建物の幾つかの部屋に移動配架された。今まで火災の危険にひやひやしていた私どもは，安全になったのを心からうれしく思う。そうして今度は散逸することがないように，やがては大きな1つの建物に収納されることを願っている。

○　もう既にその時期は過ぎたけれども，河北新報社が編纂刊行を計画した「宮城百科事典」については，東北大学に関係する事項が多いことと，執筆者に東北大学の関係者が多いことと相まって，東北大学記念資料室への問合わせや，資料利用のための来室がすこぶる盛んであった。出来るだけの努力はしたが，なかなか思うようには行かず，教えられることも多く，感謝される場合もしばしばあったが，また能力について反省するよい機会ともなった。感心したのは，本部事務局の庶務部の総務掛や人事掛の人々であって，昔の大先生の経歴などについて実によく整理された資料をもっており，適確な回答を短時間で与えてもらった。その能力は尊敬に価するものと思い，それからは本室へ来た質問をそちらへ安心して指向けていたのであった。教養部の事務室へも同様のことがあった。いずれもお仕事をふやして相すまなかったけれども，多くの人が感謝をよせられたので，ここに記して御協力にお礼を申したい。

昭和56年度 第1回東北大学附属図書館総合研修会

毎年実施されているこの研修会，今回は本館の柿沼閲覧課長を講師に，主として司書系職員を対象として「図書館職員として知っておかねばならない図書管理に関する諸法規について」をテーマに，3回連続の講義形式をとって本館会議室を会場にして行われた。日程およびテーマは次の通りである。

第1日（6月16日）：図書館職員にとって必要な法規とは何か。図書館職員が法規上果す役割について。

第2日（6月23日）：図書の受入と会計法規について。

第3日（6月30日）：図書に関する会計法規上の諸問題について。

図書も物品の一つである。物品であるからにはその取得，保管，使用，処分に関しては他の一般物品同様，物品管理官，同供用官等物品の管理機関によって管理され，物品管理法，同施行令，会計法，予算決算及び会計令，その他多くの法令によってその運用が細かく規制されている。

柿沼課長はこれらのうち最も基本的な法令と，主として図書の買入支給の過程（購入—受入—供用）との関連を中心主題にとり，支出負担行為書や物品請求及び命令書記入等の具体例と，配付された資料とを参照させながら，明快かつ詳細な説明を展開した。

私達はこれまで図書の管理事務の流れを，物管法その他の法令上の視点でとらえ体系をたてて学ぶ機会が少なかった。又その必要を認めながらも日常業務に追われて，例えば何故図書購入及使用票を作成し，それに供用官が受領印を捺さなければならないのか，その背景や法的根拠まで追求することも少なかった。それだけに出席者は，系統的に整理された論理と図書受入の実務とを対比させながら進行する柿沼課長の講義に，改めて理解を深めたものと思われる。

今回の参加者は本館，分館，部局図書室の職員の他，国立学校共通のテーマであることから県内の宮城教育大学，仙台電波高専，宮城高専からも関係職員が出席した。しかも受講希望者が多かったため，当初予定した3日の他に，第2回として6月18日，25日，7月2日の3日を同じ会場で実施した。参加者は第1回の3日間が延87名，第2回が延105名であった。

（総合研修委員）

永年勤務者表彰

本学永年勤務者の表彰式が，本学創立記念日の6月22日（月）松下会館において午前11時から行われました。

本学に通算満20年勤務し，職務に精励されてきた職員が受けるこの表彰に，本館から沼田恵美（参考調査掛），山本カズ子（閲覧掛）の両氏が，農学分館から米倉進氏（図書掛）が該当し表彰状と記念品が贈られました。

会　議　等

○昭和56年度第1回東北大学附属図書館総合研修会
　と　き：第1グループ　昭和56年6月16，23，30日
　　第2グループ　昭和56年6月18，25日，7月2日
　ところ：図書館会議室
　講　師：柿沼閲覧課長
　テーマ：図書館職員として知っておかねばならない図書管理に関する諸法規について

○第3回書籍，古文書等のむし，かび害保存対策研修会
　と　き：昭和56年6月18～19日
　ところ：社会文化会館
　受講者：閲覧掛　松元義正

○第28回国立大学図書館協議会総会
　と　き：昭和56年6月23～24日
　ところ：琉球大学附属図書館
　出席者：服藤館長，長尾事務部長，竹原総務課長，木本医学分館事務長

○第3回情報図書館学夏期シンポジウム
　と　き：昭和56年6月27日
　ところ：東京大学附属図書館
　受講者：参考調査掛　佐々木勝義

○昭和56年度図書館等職員著作権実務講習会
　と　き：昭和56年7月29～31日
　ところ：東京大学経済学部
　受講者：相互利用掛　佐藤正志

○昭和56年度大学図書館職員長期研修
　と　き：昭和56年8月6～26日
　ところ：図書館情報大学他
　受講者：医学分館整理掛　川村隆男

東北大学附属図書館報「木這子」　第6巻　第2号（通巻第22号）昭和56年8月31日発行
編集委員長　佐々木勝義　編集委員　佐藤賢策，藤原克彦，京極菊子，森脇ちか
発行人　長尾公司　発行所　東北大学附属図書館　仙台市川内　電話 代表 22-1800（2408）